



議案第61号

一般会計補正予算(第2回)

石鎚山を舞台に

実施する踊りとは？

(自民クラブ)

問

今回の補正で、周年事業として市民参加型の踊りのイベントを開催するための予算が計上されている。イベント開催に当たり、石鎚山をテーマとした踊り「ISHI-ZUCHI」の創作理由のほか、事業の周知、当日の交通手段、雨天時の対応、新しい踊りの活用方法について、どう考えているか。

答

本年、西条市は、合併5周年の節目を迎える。これを機に、「西条は一つ」という機運の高揚、市民の融和と一体感の醸成、さらには石鎚山の存

在や魅力を再認識するため、11月1日に、石鎚登山ロープウェイ下谷駅周辺や成就社、石鎚ピクニック園地で1千人規模の踊りのイベントを予定している。

踊りの創作は、市民に親しまれる、西条市オリジナルの芸術文化の創造を目的として、関西京都今村組最高顧問の今村克彦氏に依頼することとしている。

なお、イベント会場までの交通手段は、貸切バスでの輸送や、シャトルバス及びロープウェイの運行により対応したい。また、野外でのイベント開催手法については、今後きめ細かい検討を加えていきたい。

事業の周知については、市報へのチラシの折り込みやポスターの作成、インターネットなど、さまざまな広報媒体を積極的に活用していきたい。

今後の踊りの活用については、運動会や各種イベントにおける継続的な披露、踊りの指導会の開催により、将来の西条市を担う子どもたちをはじめ、広く市民に踊りの普及・浸透に努めていきたい。

ふるさと生活体験

推進事業

(無党派)

問

ふるさと生活体験推進事業は、緑豊かな農山漁村において、自然、文化、人との交流といった生活体験を児童がすることは貴重な経験になると考えるが、具体的にどのような目的で実施するのか。

また、事業の趣旨からすると、市内中心部の児童が対象になると思うが、宿泊先も含め、どのように選定するのか。

さらに、児童が貴重な体験から得たものを発表する機会が必要であるが、体験終了後の取り組みについてはどう考えているのか。

答

本事業は、農山漁村で民泊1泊以上を含む1週間程度の長期宿泊を体験し、農林漁業体験や生活体験をすることで、児童の学ぶ意欲や自立心、思いやりの心、規範意識などを育み、生きる力を育てることが目的である。

体験する児童は、比較的市街地の学校とし、神拝小学校5年

生170名、壬生川小学校6年生58名とした。宿泊先は、県内で農林水産省のグリーン・ツーリズムモデル地域に指定されている所から検討し、本年度より西条市及びしまなみ地区が指定されたため、移動時間も考慮し、体験プログラムの実施している両地区としている。

終了後の取り組みについては、各小学校において地域の農林水産業の学習を行うとともに、農林水産業の体験をもとに農や食関係の学習に発展させるなど、より教育効果の高い取り組みにするべく、学んだことを文化祭や学習発表会で保護者や地域のかたへ発表したり、思い出文集としてまとめる中で学びを深めていきたい。

報告第4号

株式会社西条産業支援センターの経営状況について

平成20年度の経営状況は？

(日本共産党西条市議団)

問

株式会社西条産業情報支援センターにおける交際費の用途はどうか。

また、西条経営者塾開催事業については、受託業者を変更するとともに赤字決算の現状から

開催費に対する助成も減額すべきとの指摘もあるが、どのように考えているのか。

答

株式会社西条産業情報支援センターでは、地域中小企業に対して的確な経営指導支援を実施するにあたり、対外的なネットワークの構築を図り、有益な情報の収集を主眼として交流活動を行っている。

交際費については、社会通念上妥当と認められるものについて支出しており、一般企業のような接待を中心とした売り上げ先への販促活動での支出は行っていない。

具体的には、商品開発・販路開拓用の食材の購入費、食料産業技術懇談会などの交流会経費などに当てている。

また、西条経営者塾開催事業については、地域の中小企業経営者に対し、自らが積極的に販路開発などを行うマイナンドの醸成などを目的として実施しているが、卒業生は、積極的な営業活動、新規店舗の展開や新規事業への展開を図るなど目覚ましい実績を上げており、事業の実施に特段の問題はないものと認識している。